# 夏野菜の管理作業

## ＜夏の果菜類―脇芽の管理作業＞

○キュウリ、トマト、ナスの芽かきは何のためにしているのか

樹体が小さく、根が充分張っていない時に結実させると栄養が実の方にとられて樹体が大きくならず、最終的な収量は少なくなることが見られます。

«キュウリ»

初期に花をつけすぎて樹が弱るのを防ぐため

・キュウリは１本仕立てですが６節までの摘花と脇芽取り、さらに６節の上の主節に着いた花は収穫し、脇芽の１葉後の花は第１果のみを収穫します。

・６節上の脇芽は伸ばし、１番目の花とその先の葉を１葉残し脇芽の先端を止めます。収穫の手の届く 12－15 節ぐらいまで繰り返します。

（夏キュウリは果実の成長が早く、また梅雨の多湿や梅雨後の高温乾燥を耐えるため、定植後の根の張りを優先します。その後も花数を制限しながら収穫を続けます）

＜参考＞

スイカ：親ヅル５－６葉目で摘心し２，３，４葉目からでる子ヅル伸ばし，子ズルに着く２番目の雌花を着果させ収穫します。１株に２－３個収穫を目安にしてください。

メロン：親ヅル５－６葉目で摘心し２，３，４葉目からでる子ヅルを 25 葉ぐらいのばします。伸ばしたその子ヅルは４葉までに出てくる孫ヅルは除去し、それ以降に出てくる孫ヅルの雌花を着果させ収穫します。１株に６―９個を目安にしてください。

«トマト»

脇芽の果実が重くなり枝の付け根から果実の重さで折れるため１本仕立てとします。

・トマトは脇芽を伸ばさず１本仕立てにし各節から出たわき芽を小さい間に、晴天の日に手で摘み取ります。
脇芽が大きくなった場合はハサミで切り取って下さい。

«ナス»

生育後半に葉や果実への日当たりを確保するため

・ナスの仕立て方の基本は１番目の花の上下２本の脇芽は先を止めずに伸ばし３本仕立てにします。

・各葉から伸びてくる脇芽は２葉後に花が付きその先の葉を１枚残して先を止めます。
さらにナスの収穫時に果実の前の葉から伸びた脇芽まで切り戻します。

# ＜クウシンサイ(空芯菜)の育て方＞

（クウシンサイの他の呼び方、エンサイ、ヨウサイ、アサガオナ）

## 1　クウシンサイの特徴

原産地は熱帯アジアでヒルガオ科、暑さに強く５月から８月まで播種ができますが、寒さには弱く冬を越せません。
茎を切ると中が丸く空いているために空芯菜と呼ばれます[KA1]。
水に挿しておくと簡単に根が出てきて増やせます。
以下のものを多く含みます。

クセがなく、炒めものに最適です。
栄養価も高く、ビタミンC、βカロテン、鉄分やカリウムなどのミネラルが豊富、特に鉄分が多く、疲労回復に効果があるといわれます。

(NHK「みんなの趣味の園芸」より)

## 2　育て方と収穫

・株を摘み取りして収穫する時の種まきは、株間 30 ㎝の３－５粒の点播きにして１ｃｍの覆土をします。
・摘み取りの本数を増やすための摘心は、草丈が 20－25 ㎝頃に株元から3～5 節まで残して行い、ふえた脇芽を伸ばし収穫します。
・株全体を収穫する時の種まきは、溝を切って５㎝間隔に条播きをして１㎝覆土します。間引きは双葉が開いたときに２本にします。
・収穫の方法は摘心後の脇芽の草丈が 20－25 ㎝頃に株元から 3～5 節まで残して収穫します。
・水を好むので土が乾けばたっぷり水をあげてください。
・日当たりの良い風通しの良い場所が適しています。

## 3　肥培管理

・２週間前に苦土石灰を m²あたり 100g を施用し、同時に腐葉土や堆肥を 5L/ m²施用し土に混ぜて準備しておきます。
・種まきの３－４日前までに化成肥料（例８－８－８）を m²当たり 100g を散布し、鍬で攪拌しながら畝を作り種まきに備えます。
追肥は２週間ごとに 300 倍の液肥を施して下さい。

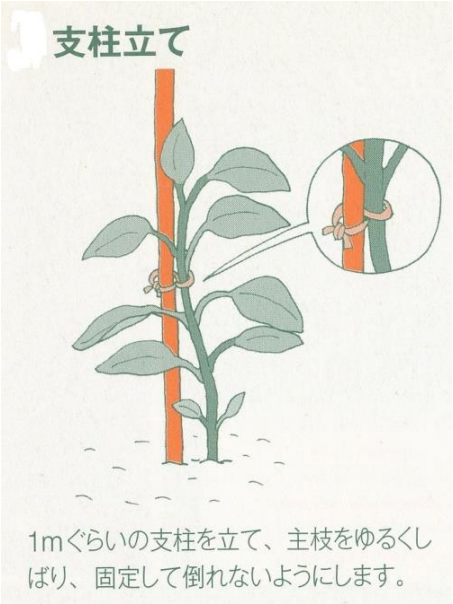
## 4　病害虫

・アブラムシ・ダニの発生があります。
・オンブバッタも害しますので見つけ次第、捕殺してください。

# ナス（ナス科）

| | |
|---|---|
| 特　　徴 | インド東部原産<br>日当たりがよく、水はけのよいところを好みます。<br>肥料と水を多く必要としますが、うまく栽培すると、秋まで長期にわたり収穫できます。<br>「ナスは水と肥料でつくる」 |
| 初期管理 | 水遣り：定植後たっぷり、その後は乾いた時<br>追肥：植え付け後 15～20 日後に化成肥料を 50g/㎡施用する<br>仕立てかた：本葉が 8 枚に育つと 8 枚目に一番花が咲き、脇芽が出る<br>・3 本仕立ての場合：花のすぐ下と、もう一つ下の脇芽を残し、主枝と合わせて 3 本仕立てにする。それより下の脇芽は取り除く。この時支柱をする。<br>・2 本仕立ての場合：花のすぐ下の脇芽を残し、主枝と合わせて 2 本仕立てにする。<br>それより下の脇芽は取り除く。この時支柱をする |
| 中間管理 | 追　　肥：苗がしっかり根付いたら週に 1 回液肥を与え(1000 倍程度)、肥切れしないようにする<br>敷きわら：支柱を立てた時に、乾燥や雨による土のはね返りを防ぐため、敷きわらなどをする。 |

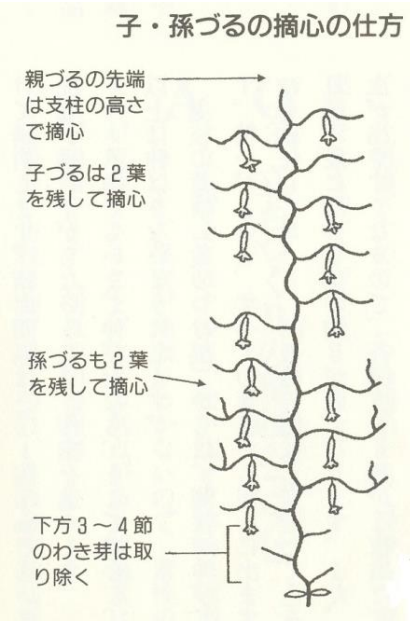
(施肥の目安　堆肥：スコップ 1 杯：2 kg、苦土石灰 1 握り：約 40g、化成肥料 1 握り：約 30g、 1 つまみ：約 2 g)



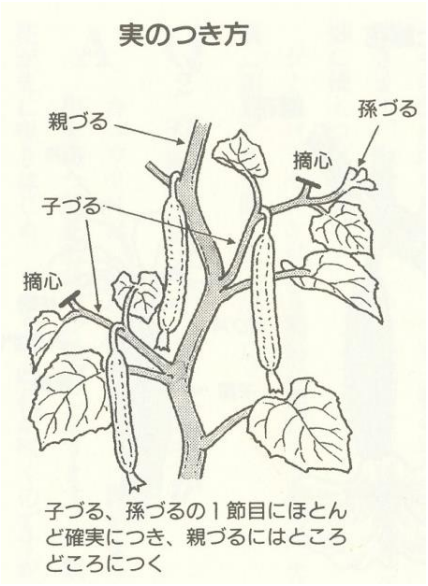
# キュウリ（ウリ科）＜定植＞

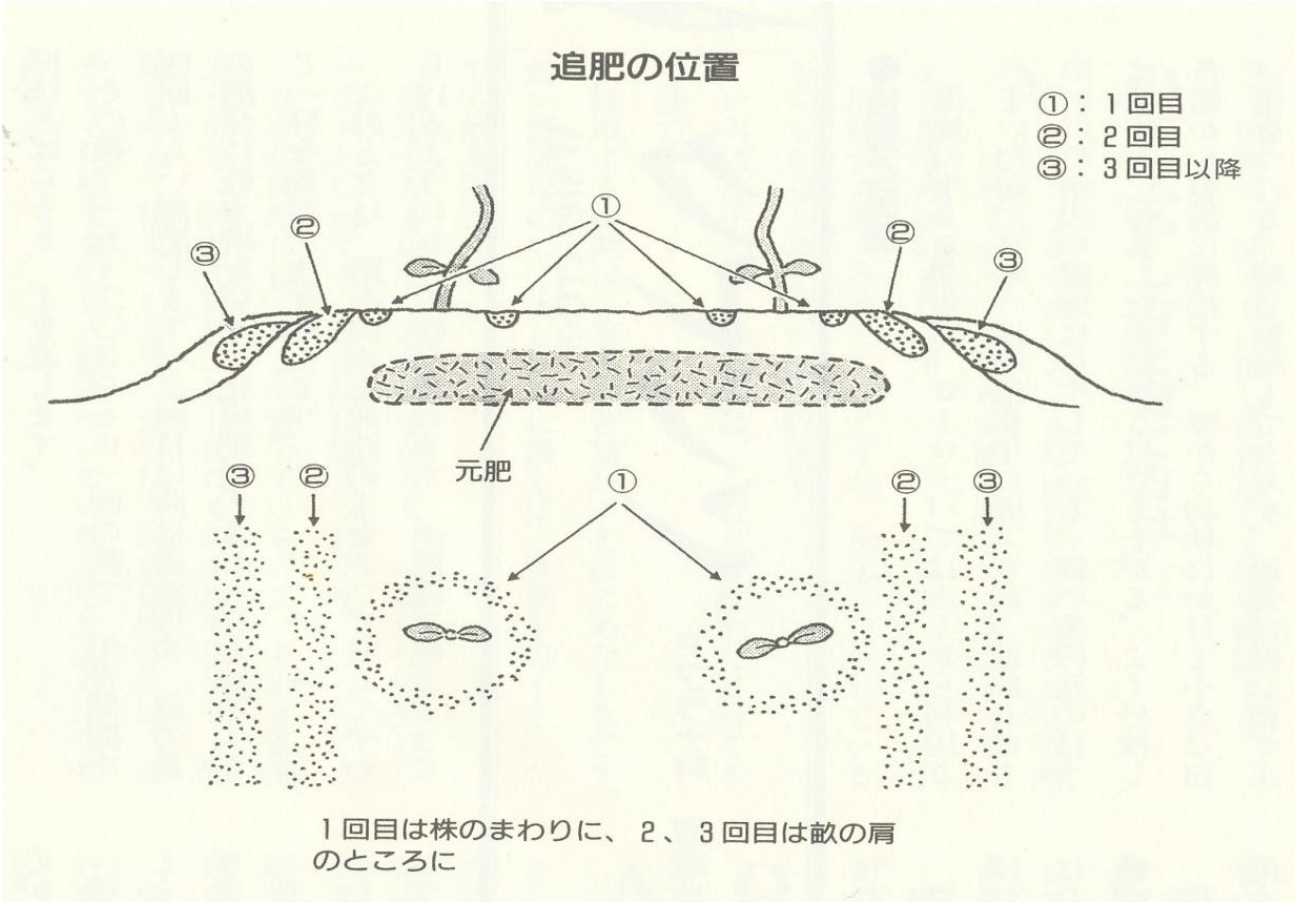
<table>
<tr><td>特　　徴</td><td>キュウリの原産地はインド北部のヒマラヤ山脈の南部山麓といわれている。<br>日当たりがよく、水はけのよいところを好む。</td></tr>
<tr><td>定植時期</td><td>5 月上旬が適期。<br>夏場に枯れ上がってくるので、収穫しているときに株の間に新しい種子を直まき(7 月中)して、次に収穫するキュウリを育てておく。そうすると秋まで連続して収穫することができる。</td></tr>
<tr><td>土の準備</td><td><table>
<tr><td rowspan="3">1 ヶ月～<br>2 週間前</td><td>耕起</td><td>30cm</td></tr>
<tr><td>苦土石灰</td><td>100g/㎡</td></tr>
<tr><td>最適 pH</td><td>5.5-6.5</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1 週間前</td><td>発酵牛糞堆肥</td><td>3 kg/㎡</td></tr>
<tr><td>化成肥料(8-8-8)</td><td>100g/㎡</td></tr>
<tr><td>畝の高さ</td><td>20cm</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>定　　植</td><td>株間隔：40cm<br>水遣り：定植後たっぷり、その後は乾いた時<br>病害予防に有効なコンパニオンプランツ<br>・ネギの仲間</td></tr>
<tr><td>初期管理<br>～<br>中間管理</td><td>・水遣り<br>・キュウリは根の長さが 2 m ほどになるが、地表近くに浅く張る(浅根)。<br>・水はけを良くするとともに、夏の高温乾燥期には敷きわらなどをして根が乾燥に合わないよう、丈夫に育てる。<br>・追肥<br>一度に多くの肥料をやると「肥やけ」(濃度障害)を起こすので注意。<br>・支柱：株が大きくなってきたら支柱をする</td></tr>
<tr><td>病　　気</td><td>うどんご病に注意：重曹の 1000 杯液を噴霧</td></tr>
</table>

・施肥の目安（堆肥：スコップ 1 杯：2kg、苦土石灰 1 握り：約 40g、化成肥料 1 握り：約 30g、1 つまみ：約 2g）


子・孫づるの摘心の仕方
親づるの先端は支柱の高さで摘心
子づるは２葉を残して摘心
孫づるも２葉を残して摘心
下方３～４節のわき芽は取り除く

初期の子づるの処理
下方３～４節のわき芽は取り除く


実のつき方
親づる
孫づる
摘心
子づる
摘心
子づる、孫づるの１節目にほとんど確実につき、親づるにはところどころにつく


追肥の位置
①：１回目
②：２回目
③：３回目以降
①
②
③
元肥
１回目は株のまわりに、２、３回目は畝の肩のところに

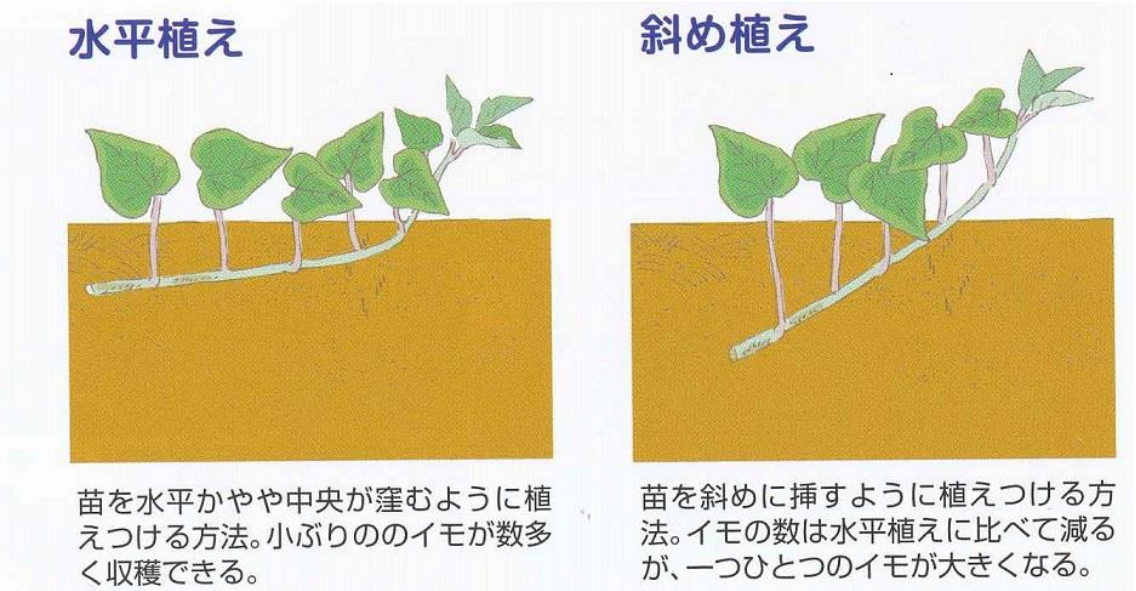
# サツマイモ（ヒルガオ科）

| | |
|---|---|
| 特　　徴 | 原産地は中米のメキシコからグアテマラにいたる標高約 2､000m の地域で、ジャガイモとともに重要な根菜類のひとつ。<br>日本へはヨーロッパを経由して中国(福建省)→琉球(沖縄)→薩摩(鹿児島)へと伝わり、全国に広がった。<br>琉球では「唐(から)いも」、薩摩では「琉球いも」そして「薩摩(さつま)いも」と呼ばれるようになった。 |
| 定植時期 | 5 月下旬　　収穫：10 月中～11 月上旬 |
| 土の準備 | |

| | | |
|---|---|---|
| 2 週間前 | 耕起 | 30cm |
| | 苦土石灰 | 不要 |
| | 最適 pH | 5.5-6.0 |
| 1 週間前 | 発酵牛糞堆肥 | 3 kg/㎡ |
| | 化成肥料(8-8-8) | 不要 |
| | 畝の高さ | 20cm |

| | |
|---|---|
| 定　　植 | 苗の選定：長さが 25－30cm。茎が太く 7～8 節ある苗がよい。茎の先が赤紫になっていて、葉が肉厚なものがよい。<br>植え付け：定植前に苗をまとめて水揚げして、十分に水を吸わせてから植え付ける。隣の株と 30cm あける<br>水 や り：植え付けたらたっぷり水をやる。根が活着して、茎が伸び、新しい葉が出てくると後は水をやらなくてよい。 |
| 中間管理 | あまり手を加えなくてよい<br>葉が地面を覆うことにより、光合成が盛んになり、でんぷんが多く形成されるようになる。 |

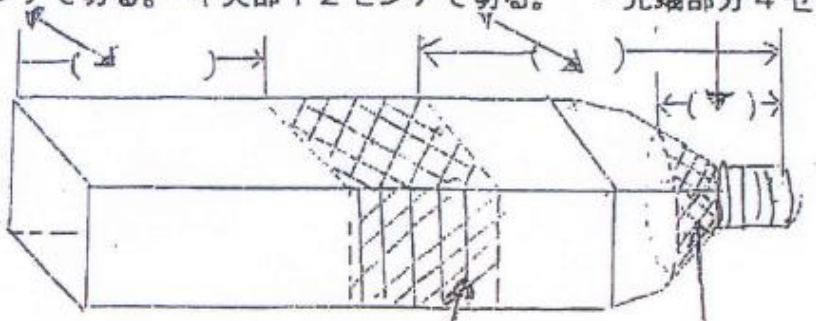
苗の植え付け方の一例



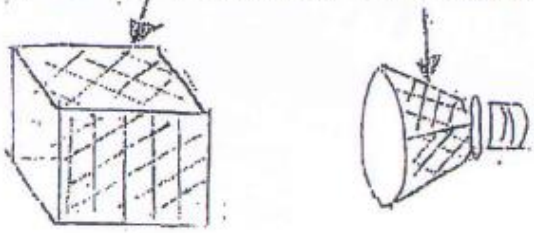
# ナメクジの捕獲器の作り方

◎ペットボトル２リッターの空瓶を用意する。（全長　３０，５センチ）

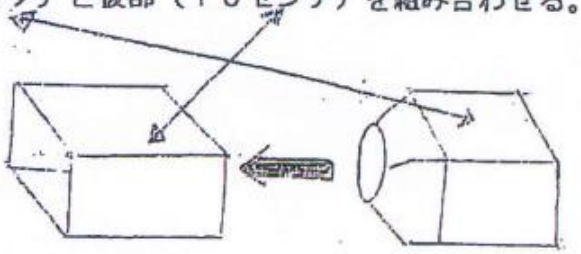
・後部１０センチで切る。・中央部１２センチで切る。　・先端部分４センチで切る。



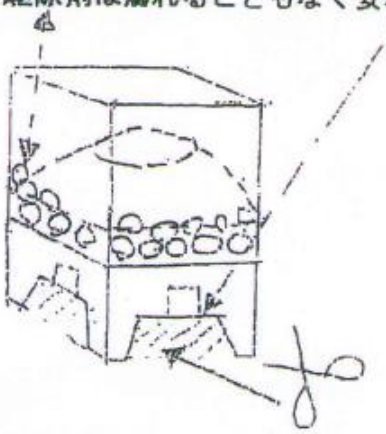
◎真ん中（４，５センチ）と先端（４センチ）の必要でない部分を廃棄する。



◎先端部分の（７センチ）と後部（１０センチ）を組み合わせる。



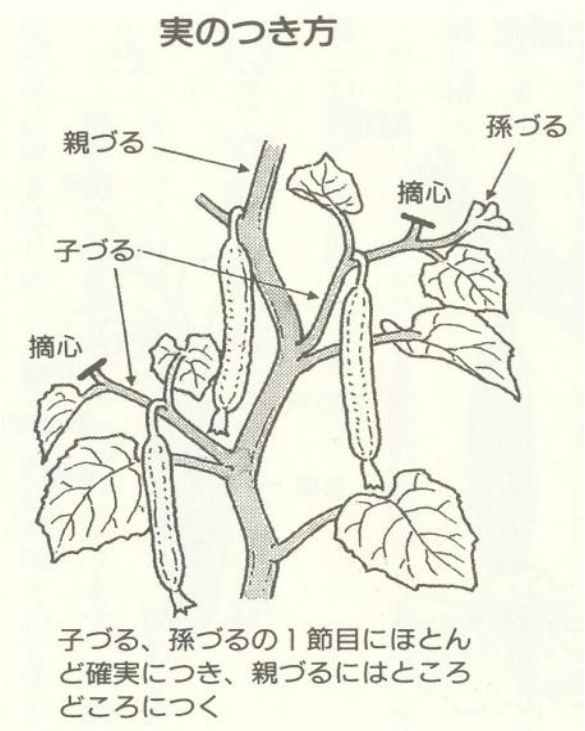
◎組み合わせた後、中央部分を下にして立ててから下部の４か所を縦２センチ、横５センチで切り取り合わせたところを、セロテープで張り付け駆除剤を入れて出来上がり。
（横、上部から水がかかっても、駆除剤は濡れることもなく安心、また子供の手にも触れず安心）

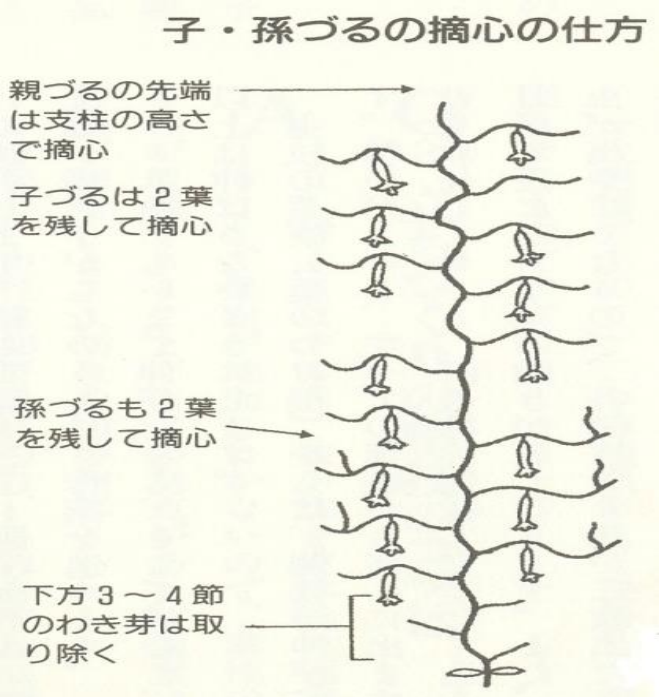


資料提供：長居パークセンター

# キュウリ（ウリ科）＜定植＞

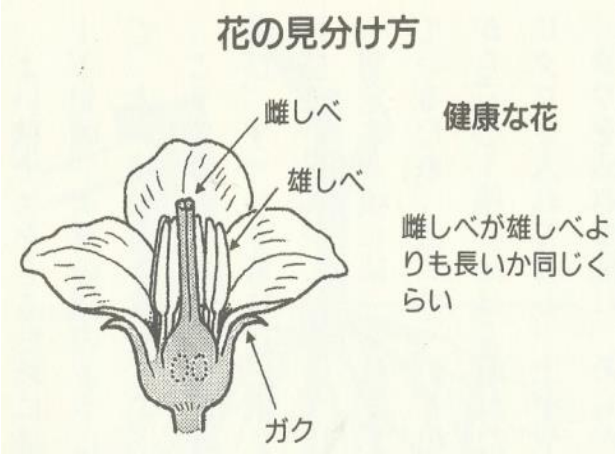
| | |
|---|---|
| 特　　徴 | キュウリの原産地はインド北部のヒマラヤ山脈の南部山麓。<br>日当たりがよく、水はけのよいところを好む。 |
| 定植時期<br>収穫時期 | ５月上旬～中旬<br>７月～８月 |
| 定植後の管理 | ① 本葉が５～６枚の頃に巻きづるが出るのでネットを張る。<br>つるはネットに絡みついて伸長する。<br>② 本葉が３～４枚までに出た「子づる」はすべてかきとる。それ以降の本葉から出た子づるは葉を２枚(２節)残して摘芯する。<br>キュウリは生育が早いので肥料切れしないようにする。<br>根が浅いので、水を切らさないようにする。<br>（蒸発抑制のために敷き藁等が効果的)<br>草丈が 70～80cm になったら半月に一度、肥料を与える。 |
| 害　　虫 | ウリハムシ |
| 病　　気 | うどんこ病は葉が白くなりかけたら、重曹の 1000 倍液を撒布するとよい。<br>土壌病害のつる割れ病は、ネギ(ニラ)と一緒に植え付けることで発病しにくくなる。 |
| そ の 他 | コンパニオンプランツ<br>＊キュウリの植え付け時にネギの仲間(ネギ、ニラ、ワケギなど)を株元に一緒に植えると生育がよくなる。 |






## ナス（ナス科）

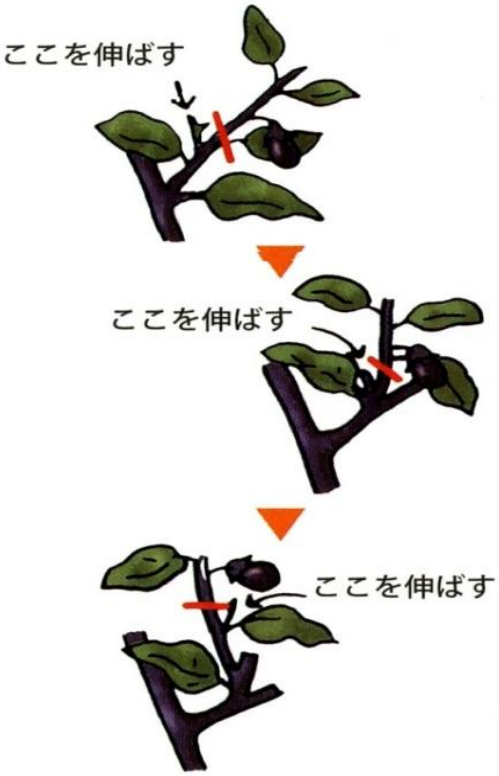
| | |
|---|---|
| 特　　徴 | 日当たりがよく、水はけのよいところを好みます。<br>肥料と水を多く必要としますが、うまく栽培すると、秋まで長期にわたり収穫できます。⇒「ナスは水と肥料でつくる」 |
| 中間管理 | 追肥：植え付け後 15～２０日後に化成肥料を 50g/㎡施用する。<br>仕立てかた：本葉が８枚に育つと８枚目に一番花が咲き脇芽が出る<br>・３本仕立ての場合：花のすぐ下と、もう一つ下の脇芽を残し、主枝と合わせて３本仕立てにする。それより下の脇芽は取り除く。この時支柱をする。<br>・２本仕立ての場合：花のすぐ下の脇芽を残し、主枝と合わせて２本仕立てにする。それより下の脇芽は取り除く。この時支柱をする。<br>追　　肥：苗がしっかり根付いたら週に１回液肥を与え(1000 倍程度)、肥料切れしないようにする<br>敷きわら：支柱を立てた時に、乾燥や雨による土のはね返りを防ぐため、敷きわらなどをする。 |
| 栄養状態の確認 | 「親の意見となすびの花は千に一つの無駄はない」と、いわれるように花が咲けば必ず実るといわれているが、栄養状態がよくないと落花する。栄養状態によって花の形が変わる。<br>栄養状態がよいと、めしべの長い花(長花柱花)になる(左の図)。<br>逆に栄養状態がよくなかったり、他にたくさんの果実をつけている場合は、めしべの短い花(短花柱花)になる(右の図)。実がなりすぎた時は若取りして負担を軽くしてやるとめしべの長い花が咲く。 |



＜収穫と剪定＞

３本仕立て、または２本仕立てにしていくと、葉ごとに花が咲き、実ができる。
実を収穫すると、わき芽が伸び出して花が咲き、実ができる。
実を収穫した後、実の下の葉を１枚残して剪定する。
残した葉からわき芽が伸び、花が咲く。そして実ができると、収穫する時、実の下の葉を１枚残して剪定する。あとはそれを繰り返していく。

・３本仕立ての場合



## サツマイモ（ヒルガオ科）

| | |
|---|---|
| 特　　徴 | 原産地は中米のメキシコからグアテマラにいたる標高約 2000m の地域で、ジャガイモとともに重要な根菜類のひとつ。<br>日本へはヨーロッパを経由して中国(福建省)→琉球(沖縄)→薩摩(鹿児島)へと伝わり、全国に広がった。<br>水はけのよい、痩せた酸性のところを好む。肥料はいらない。<br>サツマイモの体内には窒素固定細菌が共生している。<br>肥料をやると葉ばかりひろがる「つるボケ」になり、イモが太らない。<br>また土の余分な肥料分を掃除する「クリーニング･クロップ」と呼ばれている。 |
| 定植時期 | 5 月下旬　　10 月中～11 月上旬収穫 |
| 土の準備 | 2 週間前　耕起：30cm<br>苦土石灰：必要ない<br>最適 pH：４.5-５.５<br>１週間前　肥料　　：必要ない<br>畝の高さ：20cm |
| 定　　植 | 苗の選定：長さが 25－30cm。茎が太く７～8 節ある苗がよい。茎の先が赤紫になっていて、葉が肉厚なものがよい。<br>植え付け：定植前に苗をまとめて水揚げして、十分に水を吸わせてから植え付ける。<br>・水平植え：小ぶりだが多く収穫できる<br>・斜め植え：数が少なくなるが大きいいもが収穫できる<br>隣の株と 30cm あける<br>水やり：植え付けたらたっぷり水をやる。<br>根が活着して、茎が伸び、新しい葉が出てくると後は水をやらなくてよい。 |
| 中間管理 | あまり手を加えなくてよい<br>葉が地面を覆うことにより、光合成が盛んになり、でんぷんが多く形成されるようになる。 |

### 施肥の目安

| | |
|---|---|
| 堆　　肥 | スコップ１杯で約 2kg |
| 苦土石灰 | １握りで約 40g |
| 化成肥料 | １握りで約 30g |
| (その他) | １つまみで約 2g |

# 夏野菜の中間管理

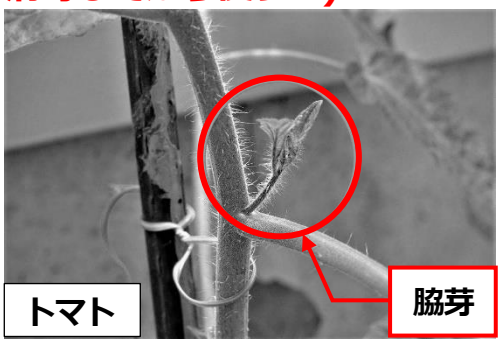
## <5 月中旬から 6 月中旬の夏野菜の話です>

・連休後霜もなくなり、4 月～5 月に植えた野菜がぐんぐん大きくなっています。
基本的なことで覚えておいてほしい事は、
・脇芽の処理と中耕　・除草　・堆肥マルチです。

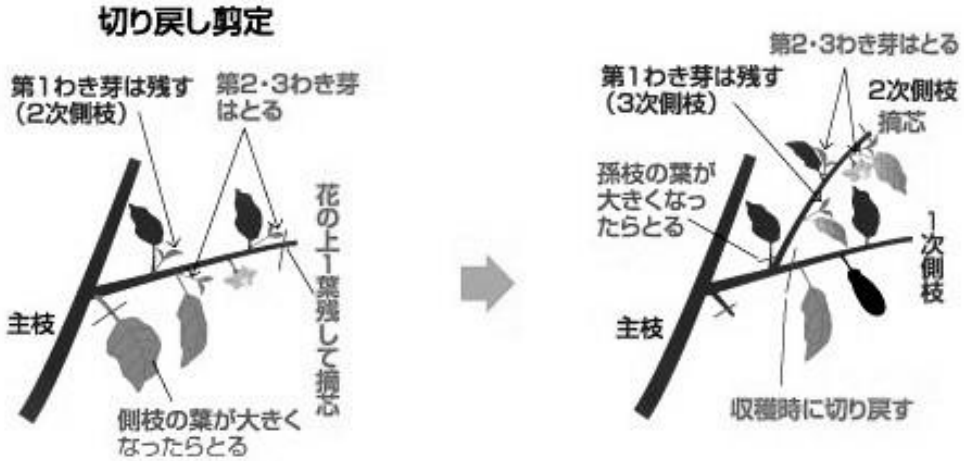
### <5 月中旬の作業>

○枝から出てきた脇芽の処理
(晴れた午前中に手で行う！ハサミを使う場合は消毒してから使う！)

・トマト：1 本仕立てで各葉から出てくる脇芽は、小さい時に手で引くように除去します。




・ナス　：一番花の下のふたつの脇芽を伸ばして 3 本仕立てにする。
2 本立ての場合は、一番花の下の脇芽をひとつ残す。
3 本の主枝それぞれからでた脇芽は伸ばします
それぞれの脇芽の第 1 番目花先の 1 葉残し枝先を止めます。
残った葉から出る脇芽は生かして果実を収穫します。




・キュウリ：1 本仕立てで 5 節（葉）までの脇芽や雌花は除去し、主枝に成る果実と 6 節（葉）からの脇芽は伸ばしますが、脇芽の第 1 番目の花先の 2 葉残し枝先を止めます。

・5 月下旬に植え付ける野菜の 5 月中旬の土づくり　[1 ㎡当たり]

| | 苦土石灰 | 発酵牛糞堆肥 | 化成肥料 (8－8－8) |
|---|---|---|---|
| トウモロコシ、オクラ | 150 g | 3－4 kg | 100 g |
| ゴーヤ、エダマメ*1 | 100 g | 3－4 kg | 40 g |
| サツマイモ*1 | (無し) | 1 kg | ＰＫ化成*2 40 g |

＊１：元肥をやりすぎると葉が茂りすぎ果実の着きが悪くなる野菜。
施肥量に注意！
＊２：チッソの含まない肥料

・トマト、キュウリ、ナスの支柱がまだの方は設置を忘れないでください。
・香りのある夏野菜のシソ、バジルの種まきやスイカやメロンの苗の定植ができます。

<5 月下旬～6 月上旬の作業>

〇トマト、ナス、ピーマンへの中耕・除草、堆肥マルチが必要です。

・定植後１ヶ月を超えると、雨や潅水のため土の表面が締まり、さらに木枠内の土も下方へ沈むことにより、土中の酸素が不足し始めて根張りが悪くなります。

→中耕・除草・堆肥マルチの重要性

そこで畝の草を取り、固くなった畝表面の土をかき混ぜ柔らかくします。株から少し離れた所の根が伸びている所へ必要であれば追肥を行います。更に株元の土の乾燥や固化を防ぎ、地温上昇の軽減を目的に、ワラや堆肥を使ったマルチをすると、夏野菜の根は元気に伸びやすくなります。

〇その他

・地温が上がり、高温を好む夏野菜の種まきや苗を植えことができます。
・この時期からトウモロコシ、大豆の種まき、またサツマイモ、オクラ、ゴーヤなどの苗を植え付けるといいでしょう。
・トウモロコシの受粉には他の株の花粉が必要なため最低 10 株以上を育ててください。
・大豆は短日にならないと花ができないため、枝豆の収穫では日の長さに鈍感な枝豆用の品種を選んでください。

〇追肥の時期と生育の観察

・果実の収穫が近くなり花数が多くなり始めると、株元の葉が黄化し、株の先端が細くなり、頂点にある新芽の伸びが悪く花の位置が新芽に近くなると、そろそろ追肥の時期です。

〇病害虫

・トマト、ナスなどに青枯れ病やウイルス病などの病害は、農薬での防除が困難です。収穫をあきらめ他の株に移るのを防ぐため株の除去を考えてください。その株は袋等に入れて自宅へ持ち帰り廃棄して下さい。
・ダニ、アブラムシは密度が高くなると他の野菜に移動しますので、多数の虫に加害された葉は除去し薬剤散布で害虫の密度を下げてください。

※暑くなりますので水分補給はこまめにし、疲れれば陰で休憩を！